様式第２号（第９条関係）

会　議　録

<table>
<tr><td>会議の名称</td><td colspan="4">令和４年度第３回ふじみ野市社会教育委員会議</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">令和４年９月２２日（木）　開会時刻　午後２時００分
閉会時刻　午後５時００分</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="4">ふじみ野市役所　第２庁舎　３階　Ｂ３０１会議室</td></tr>
<tr><td rowspan="11">出席した者の氏名
（委員１５人中１２人出席）</td><td>役職名</td><td>氏名</td><td>役職名</td><td>氏名</td></tr>
<tr><td>議　　長</td><td>斎　藤　　宏</td><td>委　　員</td><td>大 久 保 昭 男</td></tr>
<tr><td>副　議　長</td><td>中 窪 由 香 理</td><td>委　　員</td><td>武　田　和　久</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>山 口 ゆ か り</td><td>委　　員</td><td>小　澤　真　樹</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>千　葉　　信</td><td>大井小学校長</td><td>朝 倉 美 由 紀</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>石　川　健　一</td><td>学校教育課指導係長</td><td>津　野　孝　志</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>三　澤　広　江</td><td>事務局(課長)</td><td>永　倉　秀　雄</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>江　　科</td><td>事務局(副課長)</td><td>小　林　久　美</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>清　水　篤　史</td><td>事務局(主事補)</td><td>土　屋　瑠　奈</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>長 谷 川 節 子</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>会議の議題</td><td colspan="4">(1) ふじみ野市版コミュニティ・スクールの活動について
(2) 情報交換
(3) その他</td></tr>
<tr><td>会議の公開又は非公開の別</td><td colspan="4">公開</td></tr>
<tr><td>会議の非公開の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>傍聴人の数</td><td colspan="4">０人</td></tr>
<tr><td>発言の内容</td><td colspan="4">別紙「発言の要旨」のとおり</td></tr>
<tr><td>会議資料</td><td colspan="4">別添のとおり</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">教育部　社会教育課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">議事の確定</td><td>確定年月日</td><td colspan="3">令和４年１０月５日</td></tr>
<tr><td>記名押印</td><td colspan="3">役職名
議　長　　斎　藤　　宏　　㊞</td></tr>
</table>

別紙

発言者	発言の要旨
事務局 （小林）	開会の挨拶 欠席者３名で会議成立、傍聴者２名の報告
永倉課長	挨拶
斎藤議長	議事進行
事務局 （土屋）	資料の確認
斎藤議長	議事１「ふじみ野市版コミュニティ・スクールの活動について」議事進行
津野係長	「学校運営協議会とは」資料に基づき説明
朝倉校長	「地域とともに創る学校・地域社会～コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ～」資料に基づき説明
事務局 （土屋）	「ふじみ野市地域学校協働活動の現状と課題」資料に基づき説明
斎藤議長	質疑応答
大久保委員	・評議員制度が始まってから学校運営協議会ができたがなぜか。まず評議員制度が始まってから４年後に運営協議会ができた。学校としては評議員制度でいいのではないか。田舎の学校ではいまだ評議員制度のままのところもある。学校としてはどう考えているのか。
津野係長	・当初はあまり学校運営協議会がなじまず、評議員制度のままのところがおおかった、現在ふじみ野市に視察に来たりする指導主事等がおり、徐々に学校運営協議会が拡がっている状況。全国的にも同様に、まだ少ないが、地域課題、学校の課題を解決するために学校運営協議会と地域学校協働活動で人づくりと地域づくりが大事だと考え取り組むところが拡がっている状況だと思う。
山口委員	・大井小学校の朝倉先生のお話の中に、学校運営協議会の中に児童を交えて行ったとあったが、その児童はどのように選んだのか。
朝倉校長	・令和２年度に行ったものは児童会の役員である。ただ今後は思いのある児童に対して広く募集をし、学校運営協議会の大人たちと一緒に考えるというのはコミ

	ュニティ・スクールの第２ステージとして必要だと考えている。
山口委員	大人がこういう考え方、子どものための話し合いをしているということも、子どもたちの学ぶきっかけにも機会にもなる。子供たちも受け身でないということが伝われば、いい成果が出ると思う。思いがある児童というのは、どういうふうにわかるのか。何か意見を出し合う時間等があったのか。
朝倉校長	今回の場合には児童会の役員だが、児童会の役員は学校全体をよりよくしていきたいという役割を持って、その委員会に入っている子供たちのため、その思いは最初からあったわけである。これからやっていこうとしていること、それから先進的な取り組みとして、山口県や広島県は、子供たちあるいは児童会・生徒会が積極的に入ってきて、学校運営協議会のなかで自分たちの意見を述べている。そういった活動は子供たちにとっても有意義である。 逆に、学校運営協議会の委員さんたちは子供が中心なのだから、子供がどんな思いでいるのが知りたいという思いを伝えてくださっていて、その結果がこれになっている。
山口委員	子供たちの授業だったり、そういう時間は生徒会だけでなく、みんなが話しあったり、意見箱でもいいと思う。学校にお手伝いできたら、いろんな子供たちの意見を聞けるきっかけができてきたらいいなと思った。
清水委員	朝倉校長先生の資料の 21 ページに「学校運営協議会の実際　つながり、循環するシステムづくり」のお話で、学校運営協議会を 4 つの部会に分けて話し合いの目標を持っているという説明があった。 そこの下にあるコミュニティ・スクールプロジェクトチームの役割であったり、具体的な話の内容であったり、組織的な位置づけであったり、そういったものを教えて欲しい。
朝倉校長	コミュニティ・スクールプロジェクトチームというのは教職員の組織である。学校の教職員の立場から大井小学校のプロジェクトチームとして、学校運営協議会に関わるメンバーをこのようなプロジェクトチームにした。全員が入っているわけではない。例えば、心づくりであれば、道徳主任が道徳の分野を研究したり進めていく。教育相談支援主任など、2、3 人ずつが「～づくり」というグループをつくり、それをプロジェクトチームにということで、一つの組織体を作っている。これを作った反省は、学校運営協議会ではいろいろな話し合いがなされているが、当の教職員がその内容の関わり方があまりにも浅いというものから。ただ学校運営協議会が開かれるたびに何回も招集されていたら、時間の問題等難しくなるため、本校としては、大きく関わるものは年２回。それから勤務時間の中で、心作りの委員たちが教職員の勤務時間に合わせて集まってくださって、課題を聞き合いたいという時間をとって課題を焦点化している。

清水委員	この部会というのは学校運営協議会中で部会が分かれてやるのではなくて部会ごとに開催する。日にちとか時間というのが異なってくるということか。
朝倉校長	そういうことである。学校運営協議会だけを動かしていた令和2年度、3年度の前半の中で、委員たちから、もう少し課題に焦点化するような話し合いをするには、時間が必要だというご意見があった。私は部会作りをしたかった。この意見は渡りに船と思い部会を作った。部会で話し合って凝縮してきたことを学校運営協議会にかけてみんなで考えていくというシステムが一番効率的、そして深くできるなということで、このグループにした。この部会づくりは、私はこの4つ「～づくり」しているが、先進地域であると、例えば教育課程部会とか高校部会とかいろいろなカテゴリーの観点は違ってはくる。 ただ、私は循環型を考えた時に、自分としてはこれが一番やりやすいなということでこのような形にしている。
大久保委員	表題を見ると、「地域と共に作る学校地域社会」というのがある。その下に副題がついている。「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」になっている。この「スクール・コミュニティへ」にした理由があると思う。そもそも平成27年の3月に教育再生実行会議の第6次提案のなかでこの時は使われている。つまり、6次提案では、いわゆる学校を核とした地域づくりを目指すということをしている。そういう意味で副題が付けられたのかどうか確認をさせてもらいたい。
朝倉校長	そのような取り組みを目指しているところである。先ほどお話しした6月の文科省のフォーラムの中でも、実際に国はそれをこれから大きく目指したい。令和6年度には今のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を倍増したいという取組があり、その中でこれは特に目印になる方法かなということで書かせていただいた。
千葉委員	今年から具体的には始まってきたのだと思うが、例えば今まで、畑の土おこしを農家の人に管理職が頼んだりは、私は現場にいたことがありそのときに凄く思ったのが、知り合うのにすごく時間がかかる。管理職のどっちらかが5年か6年ぐらい勤めた方がいいのではないか、現実には思ったこともある。小澤委員がコーディネーターをやっていて大変でないか、というのが私の感想だが、具体的に成功例や課題を聞かせてもらえれば。 それと朝倉先生の話とか東台小学校は先進校としてすごく頑張っていると思う。私の住んでいるところには何の風も来ていないなと思う。今年度、いろんな活動をコーディネーターで整備して発展させていくというのをやらないとだめだろうなというのは思うのだが、小澤委員は感想をお聞かせてほしい。 もう一つは、市長部局が学校運営協議会に参加しているわけですよね。その意図

	をどう考えているのか。
小澤委員	朝倉校長先生のもと、この活動をさせていただいているが、私は恵まれてるなと思っている。朝倉先生に聞けば全て教えていただける。活動しやすいのような形に考えてくださる。うまくいかないところもあるが、わりと順調に活動させてもらっているととても実感している。新規の学校協働。ネットワークの中で今は来てくださる方を探しているのが現状。社会教育課に連絡をして市役所の中の課であるとかを紹介してもらって、今のところ順調に活動し、先ほどのお話がありましたトマトのめかきのことや、後でお話をしようと思っていたが、野菜の種をまくところで農家の方に来ていただいた。トマトのめかきに関してはここを取るんだよっていう直接の農家の方に指導をしていただいた。種をまく時にカブと大根の種をまいたが、カブの種を蒔く前に、これができますよ、大根の種をまく時にこれができますよというのを農家の方が直接持ってきてくださった。子供たちは農家の方にお話を聞いたりとか、質問をしたり、直接物をふれて学習するっていう姿を見れてとてもよかったなと思った。今は市役所を通して紹介してもらうケースが多い。地域のかたや市民大学を生かしたい。この活動をするようになってから、改めて地域の活動に目を向けたという状況。自分が地域とあまり関わりを持ってくることができなかった。小学校の方はいろいろなボランティアの仕事をやってきたが、地域の方とのつながりが全然ないなっていうのを改めて反省をして、これから地域の方とのつながりを直接持てるように考えている。
永倉課長	平成 30 年度にコミュニティ・スクールをふじみ野市で行った、ふじみ野市版というもの。行政職員も各学校へ行き、委員として任命をされている。 それは市長部局だけではなくて、教育委員会の職員も学校運営協議会委員に任命をされている。市長部局と言っても全部ではなく関係するであろうというところ。例えば環境課であるとか、産業振興課、文化スポーツ振興課、あとは協働推進課、ここが主な課である。ここらの職員が各学校に任命をされて、委員としての活動をしていく。
三澤委員	昔は総合的な学習の時間の人材を探すのにすごく苦労して、今こういう組織ができたこと素晴らしいと感じている。例えば学校で何をしてほしいとか、学校を良くするためには何があるといいかなって当時子供たちと話し合って、それで車椅子の困らないようにスロープがあるといいとか、いろいろ子供たちから出てくるが、そういう色んなことが出てきた中でできることとできないことを分けていく。要するに、自分たちでできることっていう感じだった。 今の話を聞いていると、自分たちではできなくても、地域の方たちに手助けしてもらったらできるのでないか、もっと広がるのではないかと聞きながら思った。そこで校長先生方に質問だが、今総合的な学習の時間はどんな内容で、どういうことを取り組んでいるのか、そこで活用できないのかと思った。外国の方々のお話を聞きたいとか、それで国際交流センターに担任が連絡をとって、すごく苦労

	した覚えがある。それが解決していくのかなと思っている。今学校で総合的な学習の時間はどんなことをやっているか。活用できないのか。
津野係長	総合的な学習の時間でこそ、地域学校協働活動を活用してほしいと考えている。例えば、学校によって総合の時間は内容が変わるが、大体5年生とか6年生で国際理解教育、福祉教育、SDGSとか最近はやったりする。そういった中で、例えば私が現場にいた時は6年生とか5年生の福祉教育をやるときに、社会福祉協議会に電話して、車椅子体験やったり、手話通訳者の方に応援を頼んだりとか、そういうことをやっていた。そういったことが今後、コーディネーターを通して担任や管理職がやっていったことを依頼ができるとなると、すごく円滑になるのかなというふうに思っている。また、国際理解教育で、例えば西小の方は総合的な学習の時間に入れて、ゲストティーチャーとして文化を学ぶとかをやっている。昔噂で聞いたのは、さぎの森小でキムチ作りを総合の時間で韓国の方を呼んでやったというような実績がある。地域学校協働活動として、総合の時間の充実に努められれば、より一層、子供たちの生きる力が身に付いていくのかなと思っている。
江委員	補足になるが、来週の月曜日にふじみの国際交流センターがゲストティーチャーとして西小に招かれ、フィリピンの方と文化を紹介する授業をしに行ってくる。その場合も今までは西小学校から直接お願いされることしかなかったが、今回はそのコーディネーターさんになったということによって、結構足を運び、事情も聞け、直接担任の先生とも話をして打ち合わせができた。前と比べると、学校にちょっと入りやすくなった実感はある。制度を導入する前との私の感想だが。
武田委員	もう大学の中でも地域との連携というところを考えると、非常に大事で、質の高い教育というのを提供するというのは一つ大きな目的もある。大学だけではこれはもう成り立たなくて、地域の皆様にお願いしているところはたくさんある。現在、ふじみ野市の中小企業がメインだが、インターンシップを大学の方でもお願いはしているが、まだまだ私も開拓もできていない。実際、産業振興課の方からいろいろな情報をいただくが、教員として開拓も一緒にやるというのは非常に困難な状況。その中でこういう仕組みを今日、いろいろ教えていただきまして、すごく貴重なお話をいただいたなと感じている。中小企業のインターンシップへ行かせていただいた学生の振り返り見ると、大学では学べない人間性の部分が色んなことで学ばせていただいている。それが就職とかいろいろなところでつながって、ふじみ野市の企業にも興味を持っている。こういう学生も多々いる。また皆さんからいろいろな情報をもらい、大学としても助けていただければなと思っている
石川委員	私は特にスポーツに関連する活動をしているで、小中学生を取り巻く活動が盛んに行われてはいるが、学校との連携ができていない。今日の話をこれからの取り組みに少し参考にさせていただければと思った。

斎藤議長	津野先生の話にもあったが、これから何 10 年先になると、今までの仕事の半分はなくなる。それから朝倉先生の話にもあったがコミュニティ・スクールからスクール・コミュニティの話もあった。実際に地域学校協働活動をやっていると、この新しい学習指導要領というのが 2019 年にでている。このテーマが「生きる力学びのその先へ」ということで、2 人にお話しいただいた内容を行ったりしている。 この生きる力と言っている新しい学習指導要領は 2 枚だけだが、小学生の父母の方へというリーフレットである。お父さん、お母さんにもわかってもらいたいなという程度の簡略化がしてある。その中で、新たに取り組むこと、これからの重視することということで、私がやっているプログラミング教育もあり、主権者教育、消費者教育、具体的にいくつか上がっている。こういったことを学校運営協議会と、皆さんが情報を共有すると、例えば主権者教育は先生方がカバーできない部分を、自分たちの地域でこういう人がいるからカバーしていこうかとか、消費者教育が特にそうだと思うのだが、こういうことを認識していくといいなと思った。それから学校運営協議会で新学習指導要領の概略を情報共有しておけば、具体的にいろんな要求が地域にも出てくるのかなというふうに思っている。
大久保委員	資料にあるふじみ野市地域学校協働ネットワーク、これを見ると、この地域学校競争ネットワーク＝地域学校協働本部という捉え方でいいのか。ネットワークは仕組みである。協働本部というのは活動の母体となる組織のはず。法的な根拠というのは実はない。ただ、社会教育法の 5 条の中で行政がやらなきゃならない役割の一つとしてこういった仕組みを作っていくということを言われている。そうするとネットワークと協働本部がイコールなのかどうか。ちょっとそれがわからない。
永倉課長	確かにネットワークというシステムと、本部という部隊というか体制というかそれとの違いということになるかと思う。確かに我々は当初、立ち上げるときに本部という名称で体制を整えていこうということをまず主体に考えていた。そうすると、イメージがしづらく、本部というと何か堅苦しく、行政用語的に当然なってしまうというのもあった。我々からすると緩いネットワークづくりを、そういったシステム、またはそういった体制が整って初めて本部というような位置づけになった方が望ましいのではないかというところで、皆様にご説明をするときには、正式名称とあわせてネットワークというイメージがしやすいよう説明をしてきた。イコールのようなイメージは我々も持っている。 ただ、本来的には本部というのが法律的にというか、対外的にというか。その方が本当の意味ではある。そこを認識的に意味合いを持たせて、イメージを持っていただくための説明として、市として扱いをしているところである。 地教行法の扱い側が学校運営協議会。地域学校協働推進委員は、社会教育法であ

大久保委員	る。そうすると社会教育法の管轄である社会教育課と学校教育課の連携である。社会教育の大きな役割を果たすのは公民館である。公民館の中に集まってくる人達はたくさんいる。そこにはネットワークもちゃんとある。そうすると公民館の館長が果たす役割というのは、私はここに関連してくるんだろうと思っている。つまり、公民館に本部を設置して館長と一緒にそこに配置したコーディネーターなり、ネットワークの人がそこで仕事ができると各学校とつながっていく。こういう仕組みは重要なのかなと思う。私が作ってきたのはそういう仕組みである。公民館に実際に配置している。地域の人を選んで学校とやりとりをしてもらう。学校には地域学校協働活動推進担当教員を配置するということで、それぞれの先生方が負担にならないように位置付けるという取り組みをしてきた経緯があるので、ここのところはわかりにくかったかなというふうに思う。
永倉課長	朝倉校長先生の資料の中の 23 ページのところにも例として、公民館を中心とした地域学校協働活動もあると、これは全国的にそういった取り組みをしているところも、和光市さんを始め、山口県の方もそういったところで取り組んでいる。けれども、当市においては公民館という確かに地域の方々がネットワークをつくられて拠点の本部となっているところも多々あるが、公民館活動で全般的にそこでやっているかというところも当然あるため、まずは社会教育課で掌握をさせ、当然公民館長もその委員として待っていただいて、そこでのネットワークづくりをしていこうということで、今取り組んでいるところである。
斎藤議長	議事進行
斎藤議長	議事「情報交換」
石川委員	入間地区社会教育協議から 令和 4 年度社会教育委員会研修会 10 月 20 日木曜日 13：30～　ふじみ野市ステラ・イースト　ホール 題材：コロナ禍におれる社会教育活動～時代に合わせた社会教育の役割　生涯学習と社会教育～ 分科会は行わない予定 講師は県の方にお願いしている。 参加申し込みが 10 月 7 日まで
山口委員	8 月 11 日、21 日にお話会のボランティア ・お話研究というグループの一員として 午前　夏休みこどもおはなし　未就学児向け 午後　怖いお話　小学生以上 ・夏休み図書館コンサート 音楽をフルートとピアノの演奏と絵本の読み聞かせを一緒に合体させたような

	初めての試みのイベント。 視聴覚ホールで１10 分名定員　無料 ・がちゃがちゃバンドで西公祭り参加 ・学校応援団ボランティア 6 年生のミシンボランティアの方に参加 上福岡歴史民俗資料館友の会活動予定
千葉委員	・友の会への勧誘を兼ねた、はたおり部会・古文書部会作品展示 イオンタウンふじみ野店 1 階ふじみ野市展示スペース 10 月 1 日～10 月 11 日 ・資料館での昔の暮らし展示見学と、昔遊びの体験　手伝い 上野台小学校 4 年生 10 月 11 日火曜日午前 9 時～12 時 ・上福岡歴史民俗資料館と友の会共催による特別展関連講座 「ミヤコの仏師、東へ」（仮題）　原口　雅樹氏 上福岡歴史民俗資料館研修室　10 月 29 日土曜日　午後 1 時 30 分～ 先着 25 名 ・上福岡歴史民俗資料館のトイレの改修工事 10 月 22 日　ヘルスウォーク
石川委員	ウオーキングの事業を行います。 今回は時間の短縮、定員の縮小 定員数も少なかったせいもあるが満員となった ・ふじみ野市人権教育推進協議会
三澤委員	7 月 9 日　人権研修会、8 月 23 日　親子映画会、11 月 26 日　人権映画会 ・人権擁護委員 人権を考える集い 10 月 19 日水曜日　フクトピア 講演　「高校へいきたい～外国ルーツの生徒たちの人権～」 ふじみ野国際交流センター　山畑さん ・8 月　ふじみの国際交流センターで外国人の子供の絵の展示会
江委員	富士見市、ふじみ野市、三芳町の施設に展示 ・西公祭りでバザーを出した ・10 月　富士見市で国際交流フォーラム。 ふじみの国際交流センターから外国の方 3 名が出席 日本に暮らす外国人の声でスピーチした ・職員の学校での校内研修

清水委員	議長斎藤先生を講師に、プログラミング教育に係る研修会を開催 ・昨日　学校で除草作業 PTA 本部の方、保護者の方だけではなくて、地域の自治会組織の方々、学校運営協議会の文化スポーツ振興課長さんの呼びかけでふじみ野市職員も 5、6 人来ていただいた。
斎藤議長	・ふじみ野市上野台小学校での先生方への夏期研修講座を実施 8 月 19 日　13 時～14 時 30 分　90 分間 対象　先生方 23 名 場所　改装したピカピカの体育館、大型スクリーン使用 目的　①児童や父母からの質問「なぜプログラミング教育」をやるのか ②プログラミング教育とは？広義と狭義の意味について ③他校事例、団体事例、等 ④研究会からの提案 内容　①情報活用の変遷：最初のコンピューターから Society5.0 の社会まで ②文部科学省：学校 Version3.0 から学習指導要領“生きる力”の教育 ③小学校から大学までのプログラミング教育の内容と役割 ④他校事例：アンプラグドからパソコンでのゲーム活用教室、等 ⑤プログラミング的思考：広義と狭義のプログラミング教育の意味 ⑥研究会としてのアドバイスと提案 ・これからの活動予定 大井小学校とのプログラミング教育に関する意見交換 上野台小学校での Scratch プログラミング演習講座 市内小学校のプログラミング教育の実態把握
長谷川委員	・ふじみ野市平和推進事業実行委員会 令和 4 年度平和祈念フェスティバル「平和な世界　一人ひとりの思いから」 10 月 1 日（土）13：00～15：30 市民交流プラザ（フクトピア） パネル展示　市役所本庁舎 1 階ギャラリー　9 月 26 日（月）～30 日（金） 大井総合支所展示スペース　10 月 3 日（月）～7 日（金）
大久保委員	・令和 4 年 7 月 28 日（木）和光市内小学校の学校運営協議会 「新しい学校づくりのための学校運営協議会制度の効果的な活用」 ①「協力」「支援」から「協働」「参画」への意識改革 ②「参画」の難しさの克服 ③学校・地域が一体となった活動 ④学校運営協議会・地域学校協働本部の連携協働通信の発行　等 ・令和 4 年 8 月 2 日（火）第 1 回生きがい学習推進計画審議会 市長より「第 2 期ふじみ野市生きがい学習推進計画の策定に関する事項につい

	て」の諮問 ・令和 4 年 8 月 18 日（木）三芳町立三好小学校にて講演 「コミュニティ・スクールの可能性」 教職員・学校運営協議会委員を対象 ①コミュニティ・スクールの役割について ②学校運営協議会の持ち方について ③教職員全体と学校運営協議会の関わり方　等 ・令和 4 年 8 月 25 日（木）和光市内中学校で講義 「探究的な学びを通した、生徒の意欲・関心を高める授業の在り方」 ・令和 4 年 9 月 16 日（金）第 2 回生きがい学習推進計画審議会 「市民アンケート」、「団体アンケート」等の設問内容について審議。
小澤委員	地域学校協働活動推進員としての活動 ・8 月下旬　各学年担任の先生方との顔合わせ 子どもが小学校を卒業後、知らない先生が増えていく。 気軽に相談してもらえる雰囲気作りが必要と考える。 お互いに顔と名前を認識することで話しやすくなった。 直接会って話をする中で、道筋が見えてくることもあった。 ・すぎのこ学級　農家の方による種まき指導 ・予定している授業 2 学年　鉄道博物館見学 3 学年　ほうき作り名人のお話
斎藤議長	議事「その他」議事進行
事務局 （土屋）	議事「その他」について連絡 ・次回会議のお知らせ ・配布物の説明
斎藤議長	議事進行
斎藤議長	閉会の挨拶